

吸収合併に係る事前開示書面

(会社法第 782 条第 1 項および会社法施行規則第 182 条ならびに
会社法第 794 条第 1 項および会社法施行規則第 191 条に基づく書面)

2021 年 9 月 1 日

住友ベークライト株式会社

SB バイオサイエンス株式会社

2021年9月1日

吸収合併に係る事前開示事項

東京都品川区東品川二丁目5番8号
住友ベークライト株式会社
代表取締役社長 藤原 一彦



東京都品川区東品川二丁目5番8号
SB バイオサイエンス株式会社
代表取締役社長 小林 孝



住友ベークライト株式会社（以下、「住友ベークライト」といいます。）とSBバイオサイエンス株式会社（以下、「SBバイオサイエンス」といいます。）は、2021年6月25日付で締結した吸収合併契約書に基づき、2022年4月1日を効力発生日として、住友ベークライトを吸収合併存続会社、SBバイオサイエンスを吸収合併消滅会社とする吸収合併（以下、「本吸収合併」といいます。）を行うことといたしました。

本吸収合併に関して、会社法第782条第1項および会社法施行規則第182条ならびに会社法第794条第1項および会社法施行規則第191条に定める事項は、下記のとおりです。

記

1. 吸収合併契約の内容

別紙1のとおりです。

2. 合併対価の相当性に関する事項

住友ベークライトは、本吸収合併に際して、SBバイオサイエンスに対して株式その他の金銭等の交付を行いませんが、住友ベークライトはSBバイオサイエンスの発行済株式の全部を有していることから、相当であると判断しております。

3. 吸収合併に係る新株予約権の定めに関する事項

該当事項はありません。

4. 吸収合併存続会社に関する事項

(1) 最終事業年度に係る計算書類等の内容

住友ベークライトは、有価証券報告書および四半期報告書を東京証券取引所に提

出しております。最終事業年度に係る計算書類等については、「金融商品取引法に基づく有価証券報告書等の開示書類に関する電子開示システム（EDINET）」または住友ベークライトの下記ウェブサイトよりご覧いただけます。

<https://www.sumibe.co.jp/ir/shareholder/index.html>

- (2) 最終事業年度の末日後の日を臨時決算日とする臨時計算書類等の内容
該当事項はありません。
- (3) 最終事業年度の末日後に生じた重要な財産の処分、重大な債務の負担その他の会社財産の状況に重要な影響を与える事象の内容
住友ベークライトは、2021年7月30日付で、住友ベークライトの完全子会社である川澄化学工業株式会社との間で、2021年10月1日を効力発生日として、住友ベークライトの医療機器事業を、川澄化学工業に承継させる吸収分割契約を締結いたしました。なお、当該吸収分割により、住友ベークライトが川澄化学工業株式会社に承継させる予定の資産の額は766百万円、負債の額は41百万円です。

5. 吸収合併消滅会社に関する事項

- (1) 最終事業年度に係る計算書類等の内容
別紙2のとおりです。
- (2) 最終事業年度の末日後の日を臨時決算日とする臨時計算書類等の内容
該当事項はありません。
- (3) 最終事業年度の末日後に生じた重要な財産の処分、重大な債務の負担その他の会社財産の状況に重要な影響を与える事象の内容
該当事項はありません。

6. 吸収合併が効力を生ずる日以後における吸収合併存続会社の債務の履行の見込みに関する事項

住友ベークライトの2021年3月31日現在の貸借対照表における資産の額は222,862百万円、負債の額は107,033百万円です。また、SBバイオサイエンスの2021年3月31日現在の貸借対照表における資産の額は1,152百万円、負債の額は834百万円です。いずれの会社においても、その後これらの額に重大な変動は生じておらず、本吸収合併の効力発生日以後においても、住友ベークライトの資産の額は負債の額を十分に上回ることが見込まれます。加えて、本吸収合併の効力発生日以後における住友ベークライトの負担する債務の履行に支障を及ぼすような事象の発生は、現在のところ予測されておられません。

したがって、住友ベークライトの負担する債務については、本吸収合併の効力発生日以後も履行の見込みがあると判断しております。

以上

別紙 1 吸収合併契約書



吸収合併契約書

住友ベークライト株式会社（以下、「甲」という。）とSB バイオサイエンス株式会社（以下、「乙」という。）は、以下のとおり吸収合併契約（以下、「本契約」という。）を締結する。

第1条（合併の方法）

甲および乙は、本契約の定めるところに従い、甲を吸収合併存続会社、乙を吸収合併消滅会社として吸収合併（以下、「本合併」という。）を行う。

第2条（商号および住所）

甲および乙の商号および住所は、次の各号に掲げるとおりである。

- (1) 甲 商号：住友ベークライト株式会社
住所：東京都品川区東品川二丁目5番8号
- (2) 乙 商号：SB バイオサイエンス株式会社
住所：東京都品川区東品川二丁目5番8号

第3条（合併に際して交付する金銭等およびその割当てに関する事項）

甲は、乙の発行済株式のすべてを所有しているため、本合併に際して、乙の株主に対して甲の株式またはこれに代わる金銭等の交付は行わない。

第4条（甲の資本金および準備金に関する事項）

本合併により、甲の資本金、資本準備金および利益準備金は増加しない。

第5条（効力発生日）

本合併がその効力を生ずる日（以下、「効力発生日」という。）は、2022年4月1日とする。ただし、本合併の手續進行上の必要性その他の事由により必要がある場合には、甲乙協議の上、これを変更することができる。

第6条（合併承認手續）

- ① 甲は、会社法第796条第2項の規定により、本契約につき株主総会の承認を得ることなく本合併を行う。
- ② 乙は、会社法第784条第1項の規定により、本契約につき株主総会の承認を得ることなく本合併を行う。

第7条（会社財産の管理等）

甲および乙は、本契約締結後効力発生日に至るまで、善良な管理者の注意をもってその業務の執行および財産の管理運営を行い、その財産および権利義務に重大な影響を及ぼす行為については、あらかじめ甲乙協議し合意の上、これを行う。

第8条（本契約の変更および解除）


甲および乙は、本契約締結の日から効力発生日の前日までに、天災地変その他の事由により、甲または乙の財産もしくは経営状態に重大な変動が生じた場合、または本合併の実行に重大な支障となる事態が生じた場合には、甲乙協議し合意の上、本合併に係る条件を変更し、または本契約を解除することができる。


第9条（協議事項）

本契約に定める事項のほか、本合併に関し必要な事項は、本契約の趣旨に従い、甲乙誠意をもって協議の上、これを決定する。

以上、本契約締結の証として、本書1通を作成し、甲乙記名押印の上、甲がその原本を、乙がその写しを保有する。

2021年6月25日

東京都品川区東品川二丁目5番8号
甲 住友ベークライト株式会社
代表取締役社長 藤原 一彦 

東京都品川区東品川二丁目5番8号
乙 SB バイオサイエンス株式会社
代表取締役社長 小林 孝 

別紙2 SB バイオサイエンス株式会社の最終事業年度に係る
計算書類等

第 3 期
事 業 報 告

2020年4月1日 から
2021年3月31日 まで

東京都品川区東品川二丁目5番8号
SBバイオサイエンス株式会社

I. 株式会社の現況に関する事項(2021年3月31日 現在)

1. 事業の経過およびその成果

当期の診断薬市場につきましては、新型コロナウイルス感染拡大の影響を大きく受けて、極めて特異的な年となりました。前年度までの臨床検査薬・機器事業は、検査単価の減少を検査数でカバーするなどといったことにより僅かずつながらも毎年増加傾向で推移してきましたが、本年度は、昨年度末から継続した新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けて、新型コロナウイルス以外の呼吸器感染症の検査数が激減したことや、健康診断および一般医療の受診抑制が発生したことから、既存項目の検体検査市場は、前年度比 9%減程度になると予測され、新型コロナウイルス感染症の PCR 検査、同抗原検査、同抗体検査などの関連特需を生み出しているものの、事業全体規模の落ち込みを補うまでのレベルにはならないとみられております。そのような中で、遺伝子検査による個別化医療や迅速診断テストキットへの人工知能の組み込みによる診断の効率化など、新しい技術を用いた臨床検査も徐々に増加傾向にあり、今後の診断薬市場拡大に寄与していくものと考えられます。

当期はコロナ禍で市場環境が激変するなか、売上面では影響著しい呼吸器感染症領域から比較的影響の少ない慢性疾患領域、循環器領域等へのリソースシフトを精力的に進めるとともに、各種費用の節減に鋭意努めました。また、開発面においては急性膵炎診断薬リブリア トリプシンに続き、採算性の高いラテックス測定法による2つめの自社製造品目であるリブリア エラスターゼ I の承認を6月に、中国からの導入品である性感染症診断薬ラピッドエスピー《淋菌》の承認を本年3月に、それぞれ取得しました。親会社である住友ベークライト株式会社との間では、来期の 100%子会社化をにらみ、多方面におけるシナジー創出を目的として人材交流を活発に行うとともに、5月には同社尼崎工場内へ、10月には同社神戸事業所内への事業所移転を完了しました。システム面においても、前期の基幹システムに続き、12月にデータ類を同社サーバーへ移行して IT インフラ全般の移行作業を適宜進めるとともに、10月からは大日本住友製薬の物流体制から外れ、独自の物流システム稼働による自社流通化を開始しました。

当期業績については、コロナ禍による医療機関での受診抑制とそれに端を発する出検数の減少、記録的なインフルエンザの流行低迷等で呼吸器感染症市場がほぼ蒸発した結果、同領域製品群の比率が高い当社は著しく影響を受けることとなり、比較的影響の少ない慢性疾患領域や循環器領域へのリソースシフトによる改善効果も及ばず、売上高については非常に厳しい結果となりました。骨吸収マーカ―中シェア1位である最主力品の TRAP-5b はコロナ禍の影響を多少受けつつも 688 百万円(予算比 94.9%、前期比 102.5%)で収束し、期中にリソースをシフトした循環器領域のトリアージシリーズも 136 百万円(予算比 113.7%、前期比 270.4%)と大きく貢献しましたが、感染症領域では Dip-S(溶連菌診断薬)が 35 百万円(予算比 27.3%、前期比 18.7%)、QuickVue ラピッド SP influ が 2 百万円(予算比 3.6%、前期比 4.7%)、Sofia シリーズが 4 百万円(予算比 10.9%、前期比 16.5%)と落ち込みが激しく、その他主力品であるラピチェック H-FABP(心筋梗塞診断薬)も 80 百万円(予算比 89.9%、前期比 77.0%)、ラピッドエスピー《クラミジア》(性感染症診断薬)も 93 百万円(予算比 83.8%、前期比 84.1%)と漸減傾向に歯止めがかからないなどした結果、当期の売上高は 1,271 百万円(予算比 79.1%、前期比 85.0%)となりました。また、コロナ禍での売上低迷で呼吸器感染症領域での有効期限切れ品目が増加したことにより、約 10 百万円の廃棄が発生して原価を押し上げることとなり、費用についても各方面で鋭意節減に努めたものの上記マイナス要因を吸収しきれず、結果、営業損失 231 百万円、経常損失 233 百万円となり、当期発生した事業所移転費用の特損計上分を含めた当期純損失は 243 百万円となりました。

当期における主な研究開発の進捗状況は、次のとおりです。

① 急性膵炎診断薬

トリプシン測定試薬は、製造所の神戸事業所移転に伴い、製造所変更の一部変更申請を実施し製造販売認証事項一部変更認証書を2020年11月13日に取得しました。本製品は、大手検査センターに採用され2021年3月に「リブリア®トリプシン」として製品出荷することができました。大阪医科大学附属病院中央検査部との共同研究では、トリプシン基準値に関する研究成果が学会（日本医療検査科学会第52回大会）および学術誌（植田進之介 他:血中膵酵素測定試薬「リブリア®トリプシン」の基本性能評価と基準範囲の確認. 医学と薬学 77(12): 1659-1668, 2020)に採択されました。エラスターゼ I 測定試薬は、製造販売承認書を2020年6月16日に取得しました。2022年春の検査センター採用を目指し準備中です。

② 骨・カルシウム代謝診断薬

2018年度に研究用試薬として発売した「マーケット®M 尿ペントシジン」は、医師主導型の大規模臨床試験のA-TOP joint05での測定項目の一つとして採用されています。A-TOP joint05試験で得られたデータを基に、ペントシジン測定の臨床的意義確認を目的としたサブ解析の委託に向け、公益財団法人パブリックヘルスリサーチとの契約準備を行っています。

2. 設備投資の状況

当期において実施した設備投資の総額は34百万円であり、その主なものは、実消化システム(ソフトウェア)16百万円です。

3. 資金調達の状況

当期の資金調達について、特筆すべき事項はありません。

4. 損益の状況

区 分	2020年3月期 第2期	2021年3月期 第3期(当期)
売 上 高 (千円)	1458,432	1,246,210
経常損失 (千円)	148,465	233,810
当期純損失 (千円)	311,877	243,669
1株当たり当期純損失	311,877 円 92 銭	243,669 円 52 銭
総 資 産 (千円)	952,820	1,152,991

5. 対処すべき課題

当会社の課題は、前期に引き続き①赤字経営からの脱却と成長路線への転換、およびその一助として②親会社である住友ベークライト株式会社との効果的なシナジーの実現であり、製販研の総力を挙げてこれら目標を追求してまいります。

上記①の実現には何よりも売上拡大が急務であり、既存品についてはコロナ禍の影響継続度合いが読めない中であるものの、製薬メーカーとの協業、センター企画展開等を通じた TRAP-5b の維持伸長、ガイドライン収載を追い風にしたラピッドエスピー《クラミジア》の販売活性化、トリアージシリーズの更な

る販売拡大等に努めるとともに、新規品目としては採算性の高いラテックス製品であるリブリア トリプシンの販路拡大とそれに続くラテックス製品群の早期上市、ラピッドエスピー《淋菌》の早期展開をはかります。また、製造および営業・業務の効率化を徹底し、筋肉質な経営を推進します。上記②については、技術マッチング検討、事業リソース共有、人材交流等をはじめとした住友ベークライト S-バイオ事業部およびバイオ・サイエンス研究所との協働を継続実施し、「One Bio(ワンバイオ)」のスローガンのもと、両社で win-win となる施策の立案、遂行に尽力します。

6. 業務の適正を確保するための体制の運用状況

当社は、社則に基づいて、業務分掌、職務権限および意思決定のルールを明確にし、適切かつ効率的に取締役の職務の執行が行われる体制をとっております。また、コンプライアンス委員会およびリスクマネジメント委員会を設置しております。

7. 主要な事業内容

体外診断用医薬品、試薬、医療機器および理化学製品の研究、開発、製造、販売、輸出入およびプログラム提供サービス

8. 主要な営業所および工場等

本社 : 東京都品川区
関西支社 : 兵庫県尼崎市
神戸事業所 : 兵庫県神戸市

9. 使用人の状況

使用人数	前期末比増減	平均年齢	平均勤続年数
48名	2名増	50.9歳	23.1年

- (注) 1. 使用人数は就業人員数を示していますが、全て出向受入者です。
2. 平均勤続年数は、出向元会社での勤続年数を通算しています。

10. 重要な親会社および子会社の状況

(1) 親会社との関係

当社の親会社は住友ベークライト株式会社であり、当社の株式1,000株(持株比率100%)を保有しております。

(2) 子会社の状況

該当事項はありません。

11. 主要な借入先および借入額

借入先	借入残高
住友ベークライト株式会社	605,000 千円

II 株式に関する事項

1. 株式の状況

- ① 発行可能株式総数 4,000株
- ② 発行済株式の総数 1,000株
- ③ 当事業年度末の株主数 1名

2. 大株主の状況

株主名	持株数	持株比率
住友ベークライト株式会社	1,000株	100%

Ⅲ 会社役員に関する事項

1. 取締役および監査役の状況

地 位	氏 名	担当および重要な兼職の状況
代表取締役社長 (非常勤)	中 村 隆	住友ベークライト株式会社 取締役専務執行役員
取締役(非常勤)	寺 尾 好 弘	住友ベークライト株式会社 事業統合準備プロジェクトチーム
取締役(非常勤)	大久保 明 子	BD、学術、流通推進、研究開発担当 住友ベークライト株式会社 ヘルスケア営業本部 副本部長
取締役(非常勤)	馬 場 博 之	大日本住友製薬株式会社 常務執行役員
取締役	西 永 正 樹	企画管理、製造、信頼性保証担当
監査役(非常勤)	高 妻 健 一	住友ベークライト株式会社 経理企画本部 経理部長
監査役(非常勤)	大 西 実	大日本住友製薬株式会社 経理部 税務財務グループマネージャー

以上

第 3 期

事業報告に係る附属明細書

2020年 4月 1日 から

2021年 3月31日 まで

東京都品川区東品川二丁目5番8号

SBバイオサイエンス株式会社

事業報告に係る附属明細書

記載すべき事項はありません。

第 3 期

計 算 書 類

2020年 4月 1日から

2021年 3月31日まで

1. 貸借対照表
2. 損益計算書
3. 株主資本等変動計算書
4. 個別注記表

東京都品川区東品川二丁目5番8号

S B バイオサイエンス株式会社

貸借対照表

(2021年3月31日現在)

SBバイオサイエンス株式会社

科 目	金 額	科 目	金 額
	円		円
(資産の部)		(負債の部)	
[流動資産]	[1,060,360,379]	[流動負債]	[229,317,486]
現金及び預金	147,378,415	買掛金	72,065,950
売掛金	463,055,439	未払金	37,981,007
商品及び製品	399,595,549	未払費用	47,548,554
貯蔵品	15,937,249	未払法人税等	1,029,600
未収還付消費税	13,232,100	賞与引当金	63,400,000
その他	21,161,627	設備未払金	6,974,000
		その他	318,375
		[固定負債]	[605,000,000]
		長期借入金	605,000,000
[固定資産]	[92,631,178]	負債合計	834,317,486
有形固定資産	(21,991,323)	(純資産の部)	
建物附属設備	186,190	[株主資本]	[100,000,000]
工具、器具及び備品	21,805,133	資本金	(100,000,000)
無形固定資産	(70,234,607)	資本剰余金	(780,000,000)
ソフトウェア	55,987,880	その他資本剰余金	780,000,000
その他無形固定資産	6,809,227	利益剰余金	(△ 561,325,929)
ソフトウェア仮勘定	7,437,500	その他利益剰余金	△ 561,325,929
投資その他の資産	(405,248)	繰越利益剰余金	△ 561,325,929
その他	405,248		
		純資産合計	318,674,071
資産合計	1,152,991,557	負債純資産合計	1,152,991,557

損 益 計 算 書

2020年 4月 1日から

2021年 3月31日まで

SBバイオサイエンス株式会社

科 目	金 額	
		円
売 上 高		1,246,210,650
売 上 原 価		806,718,349
売 上 総 利 益		439,492,301
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費		671,265,565
営 業 損 失		231,773,264
営 業 外 収 益		
雑 収 益	7,580	7,580
営 業 外 費 用		
支 払 利 息	1,261,457	
為 替 差 損	782,884	2,044,341
経 常 損 失		233,810,025
特 別 損 失		
事 業 再 編 損	8,829,897	8,829,897
税 引 前 当 期 純 損 失		242,639,922
法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税		1,029,600
当 期 純 損 失		243,669,522

株 主 資 本 等 変 動 計 算 書

2020年4月1日から
2021年3月31日まで

SBバイオサイエンス株式会社

	株 主 資 本										純資産合計	
	資本金	資本剰余金			利益剰余金		株主資本合計		株主資本合計			純資産合計
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金 合計	利益剰余金		利益剰余金 合計					
					その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金 合計						
円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円		
当期首残高	440,000,000	440,000,000		440,000,000		440,000,000	△ 317,656,407	△ 317,656,407	△ 317,656,407	562,343,593	562,343,593	562,343,593
当期変動額												
減資	△ 340,000,000	△ 440,000,000		780,000,000		340,000,000			0	0	0	0
当期純利益又は当期純損失(△)						0	△ 243,669,522	△ 243,669,522	△ 243,669,522	△ 243,669,522	△ 243,669,522	△ 243,669,522
当期変動額合計	△ 340,000,000	△ 440,000,000		780,000,000		340,000,000	△ 243,669,522	△ 243,669,522	△ 243,669,522	△ 243,669,522	△ 243,669,522	△ 243,669,522
当期末残高	100,000,000	0		780,000,000		780,000,000	△ 561,325,929	△ 561,325,929	△ 561,325,929	318,674,071	318,674,071	318,674,071

個別注記表

1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

(1) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

- ①商品及び製品 : 総平均法による原価法に基づく低価法
- ②貯蔵品 : 最終仕入原価法

(2) 固定資産の減価償却の方法

- ①有形固定資産 : 定額法
- ②無形固定資産 : 定額法

(3) 引当金の計上基準

- ①賞与引当金 : 従業員に対する賞与の支出に備えるため、支給見込額に基づき、当期に負担すべき額を計上しております。

(4) 消費税等の処理の方法

- : 消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっております。

2. 株主資本等変動計算書に関する注記

- 発行済株式の数 : 普通株式 1,000株

記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しています。

1. 有形固定資産及び無形固定資産の明細

(単位:千円)

区分	資産の種類	期首 帳簿価額	当期 増加額	当期 減少額	当期 償却額	期末 帳簿価額	減価償却 累計額	期末 取得原価
有形固定資産	建物	240	-	-	240	-	-	-
	建物付属設備	1,197	-	-	1,010	186	28	215
	構築物	24	-	-	24	-	-	-
	工具、器具及び備品	33,936	3,640	-	15,771	21,805	29,895	51,700
	計	35,398	3,640	-	17,047	21,991	29,923	51,915
無形固定資産	ソフトウェア	40,442	29,422	-	13,877	55,987		
	ソフトウェア仮勘定	8,843	28,016	29,422		7,437		
	その他	6,734	1,291	-	1,217	6,809		
	計	56,021	58,731	29,422	15,095	70,234		

(注) 1. 当期増加額の主なもの

千円

有形固定資産	工具器具備品	製品紹介動画(トリアージ)	1,000
無形固定資産	ソフトウェア	実消化システム	15,590

2. 引当金の明細

(単位:千円)

区 分	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高
賞与引当金	63,400	63,400	63,400	63,400

3. 販売費及び一般管理費の明細

(単位:千円)

科 目	金 額	摘 要
販売促進費	73,471	
広告宣伝費	3,911	
役員報酬	8,200	
社員給与	241,070	
賞与引当金繰入額	54,400	
退職給付費用	26,739	
法定福利費	45,948	
賃借料	37,998	
旅費交通費	28,343	
業務委託費	50,415	
その他経費	100,767	
計	671,265	

監査報告書

私は、2020年4月1日から2021年3月31日までの第3期事業年度の取締役の職務の執行に関して、本監査報告書を作成し、以下のとおり報告いたします。

1. 監査の方法およびその内容

監査役は、取締役および使用人等と意思疎通を図り、情報の収集および監査の環境の整備に努めるとともに、取締役会その他重要な会議に出席し、取締役および使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務および財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告およびその附属明細書について検討いたしました。

さらに、会計帳簿およびこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る計算書類（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書および個別注記表）およびその附属明細書について検討いたしました。

2. 監査の結果

(1) 事業報告等の監査結果

- 一、事業報告およびその附属明細書は、法令および定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。
- 二、取締役の職務の執行に関する不正の行為または法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。

(2) 計算書類およびその附属明細書の監査結果

計算書類およびその附属明細書は、会社の財産および損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認めます。

2021年4月23日

S B バイオサイエンス株式会社

監査役

高 寿 健 一 